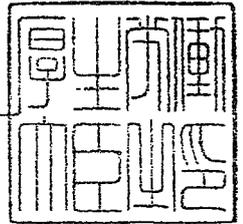


厚生労働省発食安第1206004号
平成19年12月6日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 舩添 要



諮 問 書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

アゾキシストロビン

平成 20 年 1 月 10 日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

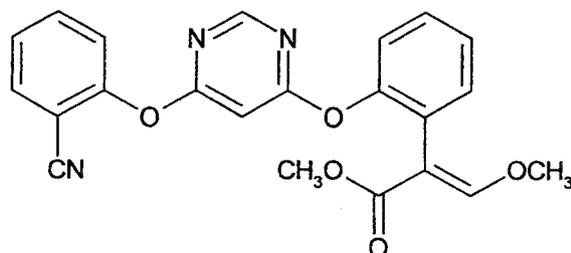
薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成 19 年 12 月 6 日厚生労働省発食安第 1206004 号をもって諮問された、食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 11 条第 1 項の規定に基づくアゾキシストロビンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

アゾキシストロビン

1. 品目名：アゾキシストロビン (Azoxystrobin)
2. 用途：殺菌剤
ストロビルリン系殺菌剤である。エネルギー生成に重要な役割を果たしているミトコンドリアの電子伝達系の中のコハク酸-CoQ リダクターゼ間の電子伝達を阻害することにより作用すると考えられる。
3. 化学名：メチル= (E) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート
4. 構造式及び物性



分子式 $C_{22}H_{17}N_3O_5$
分子量 403.4
水溶解度 6.0 mg/L (20°C)
分配係数 $\log_{10}Pow=2.5$ (20°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、本剤は以前の改正において、申請者から、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」(平成16年2月5日付け食安発第0205001号)に基づき、コーヒー豆に設定されている残留基準の変更が要請されたことから、海外における使用方法も記載している。

(1) 国内における使用方法

①20.0%アゾキシストロビン水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
小麦	紅色雪腐病	原液	4~8mL/ 乾燥種子 1kg	は種前	1回	種子吹き 付け処理	4回以内 (種子への処 理は1回以 内、は種後は 3回以内)
	うどんこ病 赤さび病	2000~ 3000倍	100~ 200L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	
だいず	紫斑病		100~ 400L/10a				2回以内
		16~ 24倍	800mL/10a				
あずき	炭疽病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いんげんまめ			60~ 200L/10a				
さやえんどう	菌核病 褐紋病 灰色かび病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
実えんどう さやいんげん	灰色かび病						
未成熟そらまめ	さび病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	2回以内
オクラ	うどんこ病			収穫前日まで			
エンダイブ	菌核病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫21日前まで	1回	散布	1回
きゅうり	うどんこ病 べと病			1500~ 2000倍	収穫前日まで		4回以内
	灰色かび病 菌核病	1500倍					
にがうり	うどんこ病 べと病、炭疽病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
					4回以内		4回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯れ病 べと病、炭疽病	1500~ 2000倍	100~ 400L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数				
ズッキーニ	うどんこ病	2000 倍	100～ 400L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内				
メロン	うどんこ病 つる枯れ病 べと病										
すいか	つる枯病 炭疽病										
トマト	葉かび病 灰色かび病										
なす	うどんこ病 すすかび病										
ピーマン	灰色かび病										
たまねぎ	灰色腐敗病										
葉たまねぎ	べと病										
らっきょう	さび病							収穫 3 日前まで	3 回以内	4 回以内	4 回以内
ねぎ	さび病							収穫 7 日前まで	4 回以内		
わけぎ	べと病										
あさつき	黄斑病 黒斑病							収穫 3 日前まで	2 回以内	2 回以内	2 回以内
にら	白斑葉枯病			収穫 14 日前まで							
にんにく	さび病			収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内	3 回以内			
しろな	白さび病			収穫 14 日前まで	1 回		1 回	1 回			
だいこん					3 回以内		3 回以内	3 回以内			
かぶ					2 回以内		2 回以内	2 回以内	2 回以内		
畑ワサビ (花及び花茎を除く)											
キャベツ	菌核病			収穫 7 日前まで	4 回以内		4 回以内	4 回以内			
はくさい	べと病 黒斑病 白さび病										
非結球あぶらな科葉菜類 (ただし、しろな、チ ンゲンサイを除く)	白さび病			収穫 21 日前まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内			
パセリ	うどんこ病			収穫 45 日前まで	1 回		1 回	1 回			
みつば	灰色かび病			収穫 14 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで							

①20.0%アゾキシストロビン水和剤 (フロアブル) (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
みょうが (花穂)	紋枯病	2000 倍	3L/m ²	収穫 3 日前まで	2 回以内	土壌灌注	2 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫 3 日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあって は開花期終了まで			
しそ	斑点病		100～ 400L/10a	収穫前日まで	2 回以内	株元散布	2 回以内
クレソン	うどんこ病			収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
葉ごぼう				菌核病	収穫 30 日前まで		1 回
こおにたびらこ ははこぐさ	葉枯病						収穫 7 日前まで
せり				斑点病	収穫 3 日前まで		
セルリー	菌核病			収穫 7 日前まで	4 回以内	4 回以内	
非結球レタス							灰色かび病
レタス	べと病			3L/m ²	収穫 7 日前まで	2 回以内	土壌灌注
	ビッグベイン病	収穫 30 日前まで					
いちご	うどんこ病	1500～ 2000 倍		100～ 400L/10a	収穫前日まで	苗床 4 回以内	散布
	炭疽病	2000 倍					
	灰色かび病	1500 倍					
	うどんこ病	1500～ 2000 倍	本圃 3 回以内				
	炭疽病	2000 倍					
	灰色かび病	1500 倍					
アスパラガス	茎枯病	2000 倍			4 回以内		4 回以内
	斑点病						
	褐斑病						
てんさい	葉腐病	1500 倍		収穫 14 日前まで	3 回以内		4 回以内 (灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
	褐斑病	1500～ 2000 倍					
		根腐病					

①20.0%アゾキシストロピン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死病 (輪斑病菌による) もち病	2000 倍	100～ 400L/10a	摘採 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

②10.0%アゾキシストロピン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数					
なし	黒星病 黒斑病 輪斑病	1000～ 1500 倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内					
	うどんこ病 炭疽病	1000 倍						収穫 45 日前まで				
ぶどう	黒とう病 灰色かび病 べと病 枝膨病 晩腐病 褐斑病 さび病			おうとう					灰星病 褐色せん孔病			
	もも									灰星病		
										ネクタリン	黒星病	
	いちじく			そうか病 疫病 さび病					すもも	灰星病 すす点病		
うめ				黒星病								
パッションフルーツ	円斑病 疫病			1000 倍								

②10.0%アゾキシストロピン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病 黒点病	1000倍	200～ 700L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
りんご (ふじ、王林、 ジョナゴールド、 つがる、千秋、 さんさ、紅玉、 シナノスイート、 昂林、涼香の季節)	うどんこ病			収穫45日前まで			
びわ				収穫7日前まで			
マンゴー	炭疽病			収穫前日まで	1回		1回
グアバ(果実)				収穫7日前まで	3回以内		3回以内
ピタヤ	炭腐病			収穫前日まで			

③8.0%アゾキシストロピン水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数		
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1000～ 1500倍	100～ 200L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以 内、本田では3回以内)		
	稲こうじ病 穂枯れ(すじ葉枯病菌) 変色米(カーブラリア菌) 変色米(エピコッカム菌) 変色米(アルタナリア菌)	1000倍							
	いもち病 紋枯病	原液						120～150mL/10a	空中散布
		8倍						800mL/10a	
		30倍	3L/10a						
		8倍	800mL/10a						
	300倍	25L/10a	無人ヘリコプター による散布						
			散布						

④1.5%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病	4kg/10a	出穂 10～30 日前	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は1回以 内、本田では3回以内)

⑤0.6%アゾキシストロビン粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アゾキシストロビン を含む農薬の総 使用回数
稲	紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN 水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数	TPN を 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 灰色かび病 菌核病 黒星病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	10 回以内 (土壌灌注は2回 以内、散布及びく ん煙及びエアゾル 剤の噴射は合計 8 回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 べと病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病			収穫 3 日前まで	4 回以内			5 回以内
すいか	炭疽病 つる枯病							

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数	TPNを 含む農薬の 総使用回数	
トマト	疫病 葉かび病 炭疽病 灰色かび病	1000倍	100~400 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内	4回以内 (土壌灌注 は2回以内)	
ピーマン	斑点病 うどんこ病				3回以内			3回以内	
なす	すすかび病 うどんこ病 褐色腐敗病 黒枯病				4回以内			4回以内	
はくさい	べと病 白斑病 黒斑病 白さび病			収穫7日前まで	2回以内			3回以内 (は種又は定植 前の土壌混和は 1回以内、散布 は2回以内)	
だいこん	白さび病			収穫45日前まで	3回以内				3回以内
にんじん	黒葉枯病 斑点病			収穫21日前まで	2回以内			2回以内	5回以内 (種子への吹き付 け処理は1回以内)
たまねぎ	灰色かび病 べと病			収穫7日前まで	4回以内			4回以内	6回以内
ねぎ	べと病 さび病 黒斑病			収穫14日前まで	2回以内				3回以内 (土壌灌注は2回以 内、散布は2回以内)
にんにく	さび病			収穫7日前まで	3回以内			3回以内	6回以内

⑦18.2%アゾキシストロビン・11.3%ジフェノコナゾール水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシストロビン を含む農 薬の総使 用回数	ジフェノコナゾール を含む農 薬の総使 用回数
てんさい	褐斑病	1000~ 2000倍	100~400 L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)	3回以内
	葉腐病	1000倍						

(2) ブラジルにおける使用方法

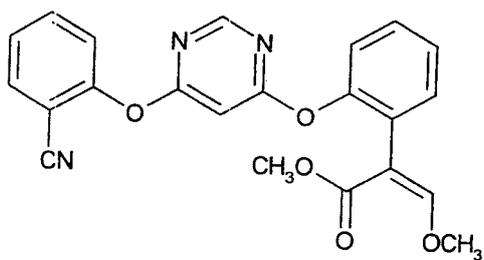
作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法
コーヒー	褐眼病 さび病	0.05kg/ha	収穫 21 日前まで	4 回以内	散布
	褐眼病 さび病 <i>Phoma</i> <i>costarricensis</i>				土壌灌注

6. 作物残留試験

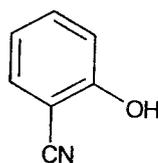
(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

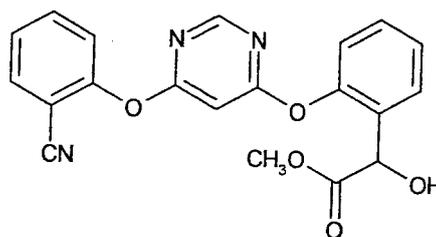
- ・ アゾキシストロビン
- ・ メチル= (Z) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート (代謝物D)
- ・ 2-ヒドロキシベンズニトリル (代謝物F)
- ・ メチル=2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} グリコラート (代謝物L)
- ・ 4- (2-シアノフェノキシ) -6-ヒドロキシピリミジン (代謝物M)
- ・ (E) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリル酸 (代謝物B)



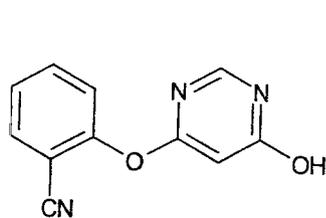
代謝物D



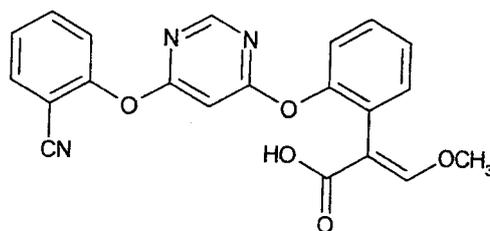
代謝物F



代謝物L



代謝物M



代謝物B

② 分析法の概要

アゾキシストロビン、代謝物D、代謝物L

試料をアセトンで抽出後、多孔性けいそう土カラムクロマトグラフィー、ヘキサン・アセトニトリルで分配し、フロリジルカラムクロマトグラフィー及びシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフ(UV)で定量する。

代謝物F及び代謝物M

試料をアセトニトリル/水混液で抽出後、ジクロロメタンに転溶する。水層を塩酸酸性下で加水分解したのち、ジクロロメタンに転溶し、シリカゲルカラム等により精製する。先のジクロロメタン層と合わせ、tert-ブチルジメチルシリルエーテル化し、ガスクロマトグラフ (MSD) で定量する。

注) MSD: Mass Spectrometric Detector(質量分析検出器)

代謝物B

試料をアセトニトリル/水混液で抽出後、C18 ミニカラム及びグラファイトカーボンミニカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフ/質量分析器 (LC/MS) で定量する。

なお、代謝物の分析値についてはアゾキシストロビンに換算した値で示した。

定量限界 アゾキシストロビン : 0.003~0.5 ppm

代謝物D、代謝物F、代謝物L及び代謝物M : 0.01~0.04 ppm

代謝物B : 0.01 ppm

(2) 作物残留試験結果

以下に示す作物残留試験結果において、記載の無い代謝物については作物残留試験において分析が未実施であり、代謝物について特に記載のない場合分析はアゾキシストロビンのみ実施されている。

① 稲

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び1.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後35~50日の最大残留量^{※1)}は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : <0.01、<0.01 ppm

代謝物D、代謝物F、代謝物L及び代謝物M : <0.01、<0.01 ppm

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び1.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後35~50日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 0.84、0.99 ppm

代謝物D : 0.02、<0.04 ppm

代謝物F : 0.09、0.08 ppm

代謝物L : 0.02、0.03 ppm

代謝物M : 0.16、0.16 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び0.6%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 0.01、0.02 ppm

代謝物D : <0.01、<0.01 ppm

代謝物F : 0.02、0.02 ppm

代謝物L : <0.01、<0.01 ppm

代謝物M : <0.01、<0.01 ppm

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び0.6%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン : 1.14、0.54 ppm

代謝物D : 0.11、0.03 ppm

代謝物F : 0.16、0.11 ppm

代謝物L : 0.16、0.05 ppm

代謝物M : 0.28、0.17 ppm

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.04、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.54、0.94 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.03、0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.52、0.94 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/

箱)及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は<0.01、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.64、1.64 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(25L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は0.02、0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を1回箱施用(50g/箱)及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布(25L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は2.32、1.07 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

②小麦

小麦(種子)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの原液を計2回種子処理(8mL/kg)し、800倍希釈液を根雪前散布(100L/10a)及び2,000倍希釈液を計3回散布(100L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン：0.02、0.10 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.06 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③だいず

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200~250L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02、0.01 ppmであった。

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの8倍希釈液を計2回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.01、0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

④あずき

あずき(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(120L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は

0.01、0.01 ppmであった。

⑤いんげんまめ

いんげんまめ(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後160~175日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、17%フロアブル注3)の1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの500倍希釈液を1回土壌灌注(1L/冊)及び1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は<0.01、0.01 ppmであった。

⑦だいこん

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.44、0.14 ppmであった。

⑧かぶ

かぶ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は2.36、8.64 ppmであった。

かぶ(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02、0.04 ppmであった。

⑨はくさい

はくさい(茎葉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの原液を1回吹付コーティング(8mL/kg)し、2,000倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.10 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

はくさい(茎葉)を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

⑩キャベツ

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.08、<0.01 ppmであった。

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200~300L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロピン: 0.03、0.03 ppm

代謝物B: <0.01、<0.01 ppm

⑪こまつな

こまつな(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(214~400L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.1、2.5 ppmであった。

⑫大山そだち

大山そだち(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は0.76、2.19 ppmであった。

⑬サガミグリーン

サガミグリーン(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は0.86、0.92 ppmであった。

⑭しろな

しろな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布(200L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.12、2.34 ppmであった。

⑮畑わさび(花及び花茎を除く)

畑わさび(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(300L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は5.86、11.8 ppmであった。

畑わさび(根茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000

倍希积液を計 2 回散布 (300L/10a) したところ、散布後 7~28 日の最大残留量は 0.82、0.73 ppm であった。

⑯エンダイブ

エンダイブ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希积液を計1回散布(200L/10a)したところ、散布後21~35日の最大残留量は<0.05、1.18 ppmであった。

⑰レタス

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希积液を計4回散布(200~300L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.52、2.94 ppmであった。

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希积液の土壌灌注(3000L/10a)及び2,000倍希积液の散布(200~300L/10a)を計4回行ったところ、散布後7~14日の最大残留量は2.4、2.5 ppmであった。

⑱たまねぎ

たまねぎ(鱗茎)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希积液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.02、<0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

⑲根深ねぎ

根深ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希积液を計4回散布(180~300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.96、0.20 ppm

代謝物D：0.02、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.03 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.02、0.03 ppm

⑳葉ねぎ

葉ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希积液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：1.42、1.20 ppm

代謝物D：0.12、0.06 ppm

代謝物F：0.04、0.04 ppm